

<タイプ1>

・根気よく続ければある程度ものになる。職業となれば辛くなる。遊びでやるから楽しい。「楽観と悲観」五分五分
 ・短編小説が好き。良く読む小説家についても調べてみようと考えた。
 ・西田幾多郎という人物をもう少し詳しく知りたい。「即非」とは、どういうことなのか気になった。
 ・芥川龍之介などの近代の人達の偉人の映像が残っていることに驚いた。
 ・私の知らない人達が出てきて、自分の教養のなさを痛感した。今から教養をつけるなら何をすれば良いですか？

<タイプ3>

・「ベースボール」を正岡子規が訳したという話には驚いた。
 ・「アーティスト・オブ・ライフ」この言葉が中でも良いと思った。
 ・「苦痛とは成長のことである」という言葉がすごく響いた。

<タイプ4>

・早めの準備が大切。相手、他の人よりも先に準備する。
 ・武者小路実篤と夏目漱石が一番印象的だった。
 ・志賀直哉が最も印象に残った。中国でも有名。魯迅も彼の作品を翻訳している。日常会話のような小説も魯迅と似ている。
 ・明治から大正時代は良いですね。
 ・レポートは、自分に驚きを与えてくれた人にしたと思っている。
 ・井戸が見ていると思った。
 ・大学からの友人は、恐らく、一生の付き合いなのではないか？という話を思い浮かべたり、その中でライバルであったり、協力し合えたり、これからも友人は大切にしていきたい。
 ・正岡子規のように人生を全うしたいと思った。
 ・少ない文字の中に、情景が見える、俳句の面白さを改めて感じた。

<タイプ2>

・昔の人の言葉ってなんであんなに心に響くのだろう？と思った。
 ・夏目漱石の親友が正岡子規ということに驚いた。漱石が子規に送った手紙を開いて心に響くことが多くあった。漱石の子規への気持ちがこもっている手紙だと思う。
 ・夏目漱石や正岡子規が書いたり評論してきたものが時代を超えて私達のような学生に伝えられていき、すばらしく、学んでいて鳥肌がたった。
 ・「一日自分の仕事、勉強を怠れば、一日国家の進歩が遅れる」
 ・名言は熱盛
 ・友人は一生もので、とても大切なものだと感じた。
 ・昨日のリレー講座の振り返りがピンポイントでまとめであり、とても為になった。エニアグラムの自由時間の過ごし方がその通りで驚かされた。
 ・夏目漱石と正岡子規のような友達が欲しいなと思った。
 ・映像資料の中で一番の驚きが、ベールブルースが日本に来ていたというのが一番の驚きだった。
 ・志賀直哉、決して欲張りせず、質素な生き方だった。
 ・自分は楽観派だと思った。
 ・鈴木大拙「外は広く、内は深い」とても意味が深いと思った。
 ・今も昔も変わらない。何かがあるということ。その何かをこれから見つけたい。
 ・なりたい職業は旅行関係。誰かの思い出づくりなどの手伝いをしたい。高校の時の数人の友人はこれからの人生で一番深い友人関係になっていくのだと思う。
 ・西田幾多郎「世界を見ようとする時、世界もこちらを見えています。「井戸」をのぞくと「井戸」もあなたを見えています」この言葉は面白い。スポーツ選手の偉人も存在しますか？
 ・気に入ったものがあれば座右の銘にしたいと思った。

<タイプ5>

・お互いに磨き合えるような友人が欲しいと思えた。
 ・有名な人の死ぬ前の映像が見られて良かった。
 ・“アーティスト・オブ・ライフ”という言葉にとても深い関心を持った。
 ・鈴木大拙「成長はまたつねに苦痛をとまなう」に共感した。
 ・志賀直哉のように友人を絞って長続き出来たら良いと思った。
 ・哲学の考え方が上手く掴めない。
 ・夏目漱石「世の中は根気の前に頭を下げる事を知っていますが、花火の前には一瞬の記憶しか与えてくれません」志賀直哉「金は食って行けさけすればいい程度に取り、喜びを自分の仕事の中に求めるようにすべきだ」私の仕事に対する考え方と全く同じだったので座右の銘となりそう。
 ・親友というのは大切な存在なんだと改めて感じる事ができた。
 ・正岡子規。血を吐く事態になろうとも何かを表そうという例えだが、私はこれを血を吐くほど考え、結果を出すという努力に魅力を感じた。
 ・苦痛とは成長すること。鈴木大拙さんの「外は広く、内は深い」という言葉が一番良いと思った。自由時間の使い方はタイプ別に見ると面白いと思った。
 ・友人を大事にしろというのが一番印象に残っている。一日の計画を立てないまま一日が過ぎてしまうことが多々あるので気を付けたい。

<タイプ6>

・友達やライバルを意識していくという言葉はとても自分自身に響いた。昔の人物の映像はとても面白く自分の憧れとする人物の映像などを探していきたい。

・ライバルを意識して生活していく。

・「アーティスト・オブ・ライフ」という言葉に関心を持った。何事も時間が必要。仕事も早く準備する。

・絶対矛盾的自己同一

・「成長はまた常に苦痛をともなう」と言う言葉に感銘を受けた。この言葉を信じて自らの人格を深めていこうと思う。

・残りの時間をどのように過ごすのか考えさせられた。

・様々な偉人達の交友関係が意外すぎて驚いた。

・夏目漱石「世の中は根気の前に頭を下げる事を知っていますが、、、」この言葉を大事にしたいと思った。

・一生涯の友を持つということの大切さを知った。また、座右の銘の意味を知りたい。

・西田幾多郎はわざと分かりにくくして考えさせているところが哲学にとって必要なことだと分かった。

・西田幾多郎「「井戸」をのぞくと「井戸」もあなたを見ています」これはニーチェの言葉を日本的な「井戸」という言葉に置き換え表現したものだと思う。

・早くから物事に手を付けると1ランク上の人間に勝つことができ、2ランク上の相手とも対等に渡り合えるという言葉が心に残った。

・夏目漱石「道楽と職は一緒にしない方がいい」という考えは印象に残った。

・武者小路実篤と志賀直哉が友人であると初めて知った。漱石が子規に宛てた手紙について2人の関係や日常について知れた。漱石に出会えたのは子規にとって財産であったと思う。心に残った言葉は鈴木大拙「成長はまたつねに苦痛をともなう」。講義を聴いていて、お互いに磨き合いながら日々成長していると思った。そのような友人を見つけない。

<タイプ7>

・動画が長すぎると暗いので眠くなる。

・西田幾多郎「哲学の動機は『驚き』ではなくして深い人生の悲哀でなければならない」深く考えさせられる言葉だと思う。

・外は広く、内は深い」と言う言葉が良い。

・ベースボールの導入者が正岡子規だと聞き驚いた。

<タイプ8>

・芥川龍之介のように、知っている人の話は嬉しい。

・自分に合う人物伝を詰めていきたい。

<タイプ9>

・毎回の授業で、偉人の言葉のシャワーを受けているので偉人の言葉の味というものを解ってきたのではないかなと思う。

・初めて名前を聞く人が多かった。自分が小説を読んでないことに気づいた。遅刻する人が多いので出席を20分で締切、後は欠席でよい。後から来て出席している人に気が散るし、時間通りに来た人が不利になる。

・漱石という名を正岡子規からもらった、というのを初めて知った。

・共に磨き上げていく親友の存在がいかに大事なもののなのかを実感した。

・今後も親友と高め合っていきたい。

・龍のようにいることが大切だと感じた。

・エニアグラムでの位置決めは、最後まで反抗心を持つつもりです。あらがうつもりです。「仲の良い者同士」で座るのも嫌です。様々なエニアグラムタイプの席に座りたいです。

・正岡子規と夏目漱石の関係性に凄く驚いた。

・今年は芥川龍之介になりきって生きようと思う。

・昔の時代の人達は、現代の日本人の何倍も自由で、ありのままだったと、感じた。

<タイプ?>

・鈴木大拙の「成長は常に苦痛をともなう」

・鈴木大拙「アーティスト・オブ・ライフ」生きると言うことの芸術家という意味。

・志賀直哉の小説を読みたい。正岡子規はブログのようなものを書いていて、一日をどのように考えて過ごしてきたのかを調べてみたい。

・夏目漱石が好きになった。

・漱石の言葉「道楽が職業と変化するとたんに他人にゆだねてしまう」ということに納得した。

・現在の全国の大学がやっている「キャリア」に関する科目は、夏目漱石が空想したものが実現していると言える。成る程と思った。

・YouTubeを授業で見るのは好きではない。T-nextにでもあげて、見たい人が見るようにして欲しい。大学まで来て、家でも見れる物を見るのはもったいない。

・偉大な貢献を遺した文化人の動画・肉声を見ることができてとても感動した。

・偉人達は、生き方がすばらしいと思った。

・講義でしか偉人達を見ることが出来ないの、こういった講義は非常に面白い。

・知らなかったことばかりで、すごく良い話を聴けた。

・生涯友達でいることは難しいけれど素晴らしいことだと思った。武者小路実篤のゆかりのある仙川は、家から近いので、行ってみたい。早めに自分のモデルを探したいと思う。

・手紙を読み上げているとき、先生が説明をはさんでくれないと意味が分からなかった。大学に行けていて良かったと思った。そして、友達の大切さが分かった。つながりを大切にしたい。

・夏目漱石から正岡子規への手紙の内容が難しかった。苦痛とは成長である。

・明治時代の人達は、日本の将来を考え、皆と協力して生きていた。今日一日からどう過ごすか考えていきたい。

・これからでも努力をすれば何か出来るのではないかなと思う。

・言葉を聞いてその意味が深く理解できると良い。